



岩木山の裾野に広がる津軽平野は、半島へと北に伸びる広大な平野で、そこに住む人間は、自らを津軽衆と称しています。津軽衆にとって岩木山は津軽のシンボルです。



岩木山を正面に眺める弘前城は可愛らしい小さなお城ながら、築城以来、400年以上の歴史を刻んで、今、石垣や濠の補修、改修のため、曳家されています。

津軽衆の友人と私は母校弘前学院聖愛中高の創立130周年記念式典に参加するため、弘前に出かけました。まず、お城に行って、そこから岩木山を眺めたいというのが、遠く津軽を離れ、異邦人になった津軽衆にとっては夢なのです。

「晴れ女」を自称する私が、弘前駅に到着した時には雨風が強く、そのうえ10月9日というのに、気温が14度くらいでした。さすがに日本は南北に長い国です。急いで持参のセーターを重ね着しました。そのうえ、友人の使い始めたばかりのスマホがフリーズし、手に負えないと言う事態になりました。近所のドコモに飛び込み、1時間くらい操作してもらいやっと修復。外に出たらなんと、太陽が顔をのぞかせてくれました。タクシーに乗って弘前城へ向かいました。女学生時代に何度か散策し、勝手知ったる、懐かしい場所です。

私たちはミッションスクールの同級生、仲良しグループでしたが、彼女が牧師と結婚したことで、より交流が深まりました。会えば、すぐに昔の仲良しに返るといことです。彼女は「美人」で有名でした。大学で幼児教育を専攻し、なんと1年生の時に神学生からプロポーズされ、牧師となった方の婚約者として、学生時代を過ごしたのです。自由にボーイフレンドと付き合った私は、可哀想ネ、などと思ったものです。でも、夫婦揃って生真面目なお二人は充実した日々を過ごしたのです。そういうわけで、私たちを知る人はこの旅行が弥次喜多になることを知っています。もうすでに何度も弥次喜多道中をしてきました。

津軽に来たら「津軽三味線」を聞きたいのも、異邦人となった津軽衆の気持ちです。予約を入れておいた津軽三味線のライブハウス「あいや」で、郷土料理、地酒を味わった後に、三味線、民謡のライブが始まるという、最初の夜を楽しむことにしました。

子どもの頃は民謡、三味線には全く興味がありませんでしたが、望郷の思いで東京・渋谷の「じゃんじゃん」で行われた高橋竹山のコンサートに行き、CDを聞くようになって、血が騒ぐ思いになったのです。激しいリズムと腹の底に響く強い音、広い音域が自在に上下して熱い情感をそそります。これが津軽の音楽なのかと、初めて知った気がしました。



母校の創立100周年に、駅前の「山唄」というライブハウスで賑やかなライブ演奏を楽しみました。その時、可愛らしい顔をした少年がニコニコ笑いながら太鼓を叩いたり、三味線を弾いたりしていました。渋谷君でした。とても印象に残っています。30年経って、彼は第一人者となり、「あいや」を開いているのです。あいにくその晩、彼は出張中。今年の津軽民謡のチャンピオンが弟子達と共に、演奏しました。民謡はお国訛りもあり、聞き取り難いものです。私たちは民謡を学校教育では習っていないのも残念です。

♪アイヤナーアイヤ 未練残して別れてみたが 遠く離れて ソレモヨーイヤ 気にかかる ♪